

## 小郡市 みくに野老人クラブ「若葉会」の活動について

小郡市老人クラブ連合会  
若葉会会長 松村 光義

## 1. はじめに

みくに野団地は昭和45年に550区画の大型団地として誕生  
自治会発足は昭和53年4月（公民館建設と同時）、老人クラブの発足も同時期  
山林を開拓しての団地造成 = 〈道路の勾配大、区画が不規則〉  
高齢化が進み10年前は空き家・空き地が至る所に見受けられたが、現在は若い  
現役世代の移住が多くなり、子ども会の人数も増えてきている  
人口1761人 世帯数796世帯 高齢化率（65以上）37.9 ←38.7 ←39.0 ←39.4%

- ①私は現在74歳、退職後3年間は『毎日が日曜日』の生活を送っていました。カミさんから「ぶらぶらしているならPCを勉強したら」と誘われ、改めて基礎から勉強し直しました。〈最初のターニングポイント〉
- ②4年目には地域の自治会役員になり、同時に民生委員児童委員を兼任しました。そこで地区のふれあいネットワーク活動に深く関わることになり、老人クラブとの交流が深まり、役員を終わってすぐに老人クラブに誘われました。〈第2のポイント〉
- ③この時期は経験豊かな人材が多く、2年目から書記を引き受け、のんびりと老人クラブ生活をエンジョイするつもりでした。ところが加入3年目の秋に役員改選の話が出たとき、前会長の描いたシナリオがなぜか壊れてしまい、準備のため副会長を1年経験した後に、令和3年度より全会員中年齢が下から5番目の私が会長を引き受けることになりました。〈第3のポイント〉 現在会長職3年目です。

## 2. 老人クラブ「若葉会」の会員推移

令和5年4月時点で、男性24人・女性43人の合計67人、平均年齢82歳です。

平成31年度	70人	61世帯
令和2年度	77	66世帯
令和3年度	75	66世帯
令和4年度	67	59世帯

会員数の推移は表のとおり令和2年度を除き減少傾向が続いており、新規会員の獲得を頑張っても「原状回復」がやっとの状態です。さらに、少子高齢化や年金支給開始年齢の引き下げなどの社会的な要因もあって、70歳代の加入が一段と厳しい状況であり、クラブの先細りが心配です。

## 3. 主な若葉会の活動について

- ①教養講座・・・年2回
- ②日帰り旅行・・・年2回
- ③サロン活動・・・月2回 ⇒ストレッチ体操、踊り、カラオケ、ダーツなど（睦美会）
- ④ダーツ大会・・・本年度より年3回（5・8・9月）実施予定
- ⑤美化活動・・・年3回（5・7・9月）⇒団地内側溝などのごみ回収作業

⑥区の空き缶リサイクルの手伝い・・毎月1回（昨年は1年間休止状態）

⑦高齢者支援活動

⑧会員による公民館サークル活動（グラウンドゴルフ、ペタンクの会、卓球愛好会）

※定例役員会11名・・月1回、日曜日の午前中（昨年度1名、本年度2名が現役世代）

これらの事業を通じて少しでも参加者を増やし、仲間づくり・健康づくりを目標に、コロナ禍で顕著になっている『フレイル』予防対策の一助になればと取り組みを続けています。また、昨年6月にはある高齢会員の切なる思いを受け、若葉会として区長に公民館敷地内に郵便ポストの新設をとという要望書を提出しました。高齢者であっても地域を構成する住民の一人であるはずで、地域の課題にもできる範囲で関わっていきたいと考えています。

#### 4. 新規会員を増やす取り組み

令和3年度はコロナ禍の厳しい条件のなかで、若葉会の活動はほとんど休止状況でした。

「このままでは若葉会の存在意義が無くなってしまおうぞ」と決意を新たにしていた矢先に、年末に市老連役員の話が飛び込んできました。市老連の組織や運営、事業の内容など全く知識がない状態で正直びっくりしましたが、結果的にその要請を引き受けました。

しかしながら、令和4年度が始まるや、市老連の仕事は想像をはるかに超えるハードさで、単位クラブの仕事はどうしても後回しの状態でした。私にできることは、役員会のなかで繰り返し会員増への対策を話し合うことでした。役員間でいろいろな情報交換を積み重ねながら、終盤には女性役員さんが2人1組になり、候補者宅への訪問やら伝手を頼りに飛び込みでの老人会加入の話をするなどして、5名の新会員を得ることができました。

この取り組みのなかでいろいろな課題も見えてきました。特に年代層が違う人たちへの働き掛けをどう組み立てていくかです。団地という特性も阻害要因として大きいです。厳しい現実ではありますが、地道に会の取り組みを地域の中で進めていくしかないと思います。

#### 5. 若葉会での高齢者支援活動について

私たちは高齢者支援活動を会の重要な取り組みの一つと考えています。毎年総会で女性役員2名を支援員に選出して、二人一組となり毎月15日に午前中の時間をかけて、見守り対象者宅に『顔合わせ・話し相手』を主な目的として訪問しています。玄関口で対象者と世間話を交わすなかで、前月の訪問時と変わった様子がないか、健康状態の変化などを判断しています。もちろん「話し相手」が一番の仕事なので、解決できないことが出てきたときは、地域の区長や民生委員に連絡してその解決策を探ってもらうことになります。

ここ2年ほどは独り暮らしの認知症に関する話題や「80・50問題」も増えています。私自身も民生委員等と連絡を取り合い、家族や地域包括支援センターとのやり取りなどの情報を活動員に伝えて、見守り活動がよりスムーズに取り組みめるよう手助けをしています。

#### 6. 「若葉会」の現状と課題

本年度は現在60歳代最後の会員2名を役員に迎え入れ、次の世代あるいは次の次の世代のリーダー育成に取り掛かっています。コロナ禍で老人クラブ会員はもちろんのこと、地域住民のつながりも弱くなっているように感じます。『フレイル』の現場にも直面しました。こんな今だからこそ老人クラブ「若葉会」の存在意義が問われていると思います。